

# みんなづくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 3. 展示

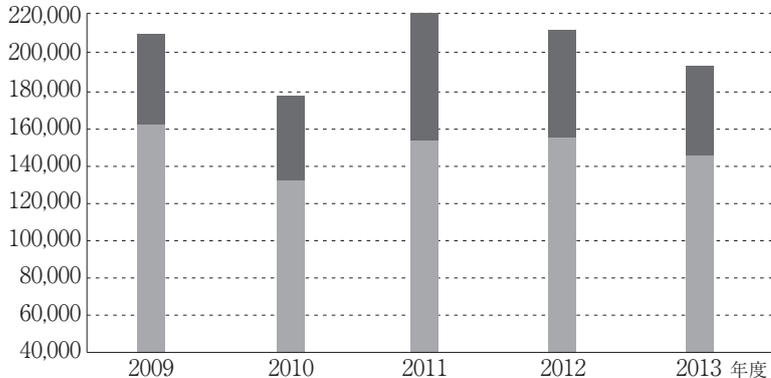
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/5477">http://hdl.handle.net/10502/5477</a>

# 3 展示

## 入館者数

●2013年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 427,249人

●入館者数（5年間）



	2009	2010	2011	2012	2013 年度
合計（人）	208,472	175,988	219,880	210,543	192,241
団体	47,172	45,122	67,856	56,480	47,978
個人	161,300	130,866	152,024	154,083	144,263

## 本館展示

### ●展示専門部会

本館展示新構築にかかわる支援・連絡調整と本館展示の運営にかかわる連絡調整、ならびに特別展・企画展の企画内容の点検支援・連絡調整を行う組織として、文化資源運営会議のもとに展示専門部会を置く。同部会は本館展示新構築総括チームと特別展・企画展ワーキング・グループより構成する。なお、本館展示の運営・新構築にかかわる案件の全体での検討の場として、随時、本館展示プロジェクトリーダーからなる拡大展示専門部会を開催する。

### ●本館展示プロジェクトチーム

	代表者	構成メンバー	(五十音順)
オセアニア展示	Peter J. Matthews	印東道子 丹羽典生	菊澤律子 林 勲男 久保正敏 小林繁樹 須藤健一
アメリカ展示	鈴木 紀	伊藤敦規 関 雄二	岸上伸啓 八杉佳穂 齋藤 晃 齋藤玲子 鈴木七美
ヨーロッパ展示	宇田川妙子	庄司博史	新免光比呂 森 明子
アフリカ展示	飯田 卓	池谷和信	川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子 吉田憲司
西アジア展示	山中由里子	上羽陽子	菅瀬晶子 西尾哲夫
音楽展示	福岡正太	川瀬 慈	笹原亮二 寺田吉孝
言語展示	庄司博史	菊澤律子	西尾哲夫 八杉佳穂
南アジア展示	三尾 稔	上羽陽子	杉本良男 寺田吉孝 南 真木人
東南アジア展示	信田敏宏	樫永真佐夫 福岡正太	佐藤浩司 吉本 忍 田村克己 平井京之介
中央・北アジア展示	小長谷有紀	池谷和信	佐々木史郎 藤本透子
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	朝倉敏夫	太田心平	
東アジア展示（中国地域の文化）	塚田誠之	韓 敏	小長谷有紀 田村克己 野林厚志 横山廣子
東アジア展示（アイヌの文化）	佐々木史郎	伊藤敦規	岸上伸啓 齋藤玲子 吉田憲司
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信 出口正之	近藤雅樹 野林厚志 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子 廣瀬浩二郎
情報・インフォメーション	野林厚志	飯田 卓	伊藤敦規 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太
イントロダクション展示	日高真吾	齋藤玲子	山中由里子 吉田憲司

## ●特別展・企画展・ワーキンググループ、本館展示新構築総括チーム等

飯田 卓 上羽陽子 齋藤玲子 日高真吾 南 真木人 山中由里子 吉田憲司

## ●本館展示の新構築（展示チームは一般公開日現在）

## アフリカ展示

一般公開 2009年 3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 飯田 卓

アフリカ展示チームメンバー（館内）池谷和信 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子 吉田憲司

## 内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

## 西アジア展示

一般公開 2009年 3月26日～

西アジア展示チームリーダー 山中由里子

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 菅瀬晶子 西尾哲夫

## 内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

## 音楽展示

一般公開 2010年 3月25日～

音楽展示チームリーダー 福岡正太

音楽展示チームメンバー（館内）川瀬 慈 笹原亮二 寺田吉孝

## 内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

## 言語展示

一般公開 2010年 3月25日～

音楽展示チームリーダー 庄司博史

音楽展示チームメンバー（館内）菊澤律子 西尾哲夫 八杉佳穂

## 内容

音声や身ぶりを媒体とすることばは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性を生み出すことばは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

## オセアニア展示

一般公開 2011年 3月17日～

オセアニア展示チームリーダー Peter J. Matthews

オセアニア展示チームメンバー（館内）印東道子 菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 須藤健一 丹羽典生  
林 勲男

## 内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

## アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 鈴木 紀

アメリカ展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 齋藤 晃 齋藤玲子 鈴木七美 関 雄二  
八杉佳穂

## 内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

## ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

## 内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

## 情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 伊藤敦規 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

## 内容

展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんぱくの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんぱくの研究者って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

## 東アジア展示 (日本の文化)

一般公開 「祭りと芸能」「日々の暮らし」 2013年3月22日～

「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」 2014年3月20日～

東アジア展示 (日本の文化) チームリーダー 日高真吾

東アジア展示 (日本の文化) チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子  
出口正之 野林厚志 廣瀬浩二郎

## 内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれています。こうした環境のなかで、隣接する諸文化と影響しあいながら、さまざまな地域文化を展開してきた。また、近年では多くの外国人が私たちの隣人として生活をともにしている。ここでは、「祭りと芸能」、「日々の暮らし」、「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニホン」という4つの角度から、日本文化の様相を展示している。

## 東アジア展示（朝鮮半島の文化）

一般公開	2014年3月20日～
東アジア展示（朝鮮半島の文化）チームリーダー	朝倉敏夫
東アジア展示（朝鮮半島の文化）チームメンバー	（館内）太田心平

## 内容

朝鮮半島の人びとは、外部の民族から影響を受けつつも、独自の文化を育んできた。有史以前は東シベリアの諸民族から、その後は中国から取り入れた文化要素を、独自のものに再編し、世界に例を見ないほど高度に統合された文化を獲得してきた。近代には日本に植民地支配され、独立後にはふたつの分断国家として急速な近代化を進めた。そして現代には、積極的に世界に進出する韓国人や、コリア系の海外生活者の姿も見られる。こうした文化の歴史的な重なりや躍動性を、精神世界、衣食住、あそびと知をテーマに紹介する。

## 東アジア展示（中国地域の文化）

一般公開	2014年3月20日～
東アジア展示（中国地域の文化）チームリーダー	塚田誠之
東アジア展示（中国地域の文化）チームメンバー	（館内）韓 敏 小長谷有紀 田村克己 野林厚志 横山廣子

## 内容

中国地域では、広大な面積と高低差のある地形がうみだす多様な自然環境のもと、さまざまな民族文化が育まれてきた。漢族が人口の90%以上を占め、平野部を中心に全国に居住している。大陸の55の少数民族は、おもに西南、西北、東北地方の高地や草原に居住しており、台湾には漢族のほか先住のオーストロネシア系民族が居住している。また、世界各地に、中国を故郷とする華僑・華人がくらししている。多様な生活環境から生みだされたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する。

## 特別展示・企画展示など

## ●特別展

## 第33回 「マダガスカル 霧の森のくらし」

会 期	2013年3月14日～6月11日
会 場	特別展示館
主 催	国立民族学博物館
協 賛	住友商事株式会社
特別協力	大英博物館、アンタナナリヴ大学付属芸術考古学博物館（IC/MAA）
協 力	マダガスカル航空日本事務所、日本万国博覧会記念機構、財団法人千里文化財団
後 援	アジア太平洋無形文化遺産研究センター、ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所、大阪府、吹田市、吹田市教育委員会、日本アフリカ学会
入場者	34,762名
実行委員長	飯田 卓
実行委員	（館内）岩谷洋史、上羽陽子、大貫美佐子（本館特別客員教員）、川瀬 慈 （館外）朝岡知子（朝岡工房）、佐藤優香（東京大学）

## 内 容

キツネザルやカメレオンで知られる、マダガスカル東海岸の熱帯雨林。そこから内陸にむかって標高を上げていくと、1,000メートルを超えたあたりで、インド洋を渡ってきた風が冷気にあたる。そこが、霧のはぐくむ「霧の森」。

この森では、熱帯雨林以上に、人びとが森に寄りそって生きてきた。焼畑を行うザフィマニリの人たちは、マダガスカルではほぼ唯一、大型（高さ3メートル）で様式化された木造家屋をつくる。

木製の調度も多く、開き戸式の木製窓に刻まれる幾何学模様は、生活に溶けこんだ彫刻としてはきわめて精巧である。彼らが生活のなかで伝えてきた木彫りに関する知識は、2003年にユネスコの「人類の口承および無形遺産の傑作」として登録され、3年後に、ユネスコ無形文化遺産となった。

この特別展では、彼らのくらしと木彫り作品をつうじて、生活に息づく技術や伝承について考える機会を提供

した。

#### 第34回 「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」

会 期 2013年 9月19日～12月 3日  
会 場 特別展示館  
主 催 国立民族学博物館  
協 賛 一般財団法人MRA ハウス  
後 援 文部科学省、大阪府、大阪府教育委員会、吹田市、吹田市教育委員会、日本文化人類学会  
協 力 公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、神奈川大学日本常民文化研究所、財団法人宮本記念財団、渋沢栄一記念館、東北大学史料館、工学院大学図書館、流通経済大学図書館、西東京市中央図書館、星野リゾート青森屋、松涛館、八勝館、一般財団法人千里文化財団

入場者 21,243名  
実行委員長 近藤雅樹  
統括責任者 朝倉敏夫  
実行委員 (館内) 飯田 卓、太田心平、齋藤玲子、野林厚志  
(館外) 井上 潤 (渋沢史料館)、内田彦彦 (埼玉県立歴史と民俗の博物館)、齊藤 純 (天理大学)、佐藤美祿 (埼玉県立歴史と民俗の博物館)、佐野賢治 (神奈川大学日本常民文化研究所)、大明 敦 (埼玉県立歴史と民俗の博物館)、武田晴人 (東京大学)、宮本瑞夫 (宮本記念財団)

#### 内 容

アチックミュージアムとは、日本銀行総裁や大蔵大臣を歴任した渋沢敬三が、自邸の物置小屋の屋根裏部屋に設けた博物館兼研究所である。国立民族学博物館はここから始まる20,000件ほどの民具と研究思想を受け継いで設立された。本展は約800点の資料で「渋沢民俗学」の広がりを示すもので、1階は渋沢の紹介に始まり、約100体の達磨や足半草履、笠やオシラサマ等とその共同研究の流れを追う展示とし、格子屋根と什器配置により屋根裏部屋の雰囲気 연출した。2階では、渋沢の支援をうけた研究者や、日本民族学会附属民族学博物館へ継承されるなかで学会員らが収集した北海道・樺太、台湾、朝鮮半島の資料を展示した。同時にこれら資料を活用した現代の事例を紹介した。

#### ●企画展

##### 「アリラン——The Soul of Korea」(国際連携展示)

会 期 2013年 5月 2日～6月11日  
会 場 企画展示場 B  
プロジェクトリーダー 朝倉敏夫

#### 内 容

韓国国立民俗博物館で2012年に開催した「アリラン展」を世界に巡回する一環として、旌善アリラン研究所とも共同で、本館において世界で最初に公開した。アリランは、朝鮮半島に出自をもつ人々の心や風土、歴史、文化などを知ることができる重要なキーワードの1つである。民族の魂を感じ取ってもらうよう、標本資料のみならず、映像・書籍のアーカイブを展示するとともに、アリランの公演も行った。

##### 「アマゾンの生き物文化」

会 期 2013年 5月23日～8月18日  
会 場 企画展示場 A  
プロジェクトリーダー 池谷和信

#### 内 容

アマゾンには世界最大の熱帯林が広がり、豊かな生き物文化が育まれてきた。インコやワシの羽を使った頭飾り、サルやベッカリーの歯の首飾りなど、アマゾンの人々の生活道具に活用されているこれらの動物は、「ペット」としても人々に愛されている。展示場では、アマゾンの雷や森の動物の音が流れ、蛇行するアマゾン川をカヌーでさかのぼるイメージで什器を配置した。山形県鶴岡市のアマゾン民族館・アマゾン自然館と本館がコラボレーションした本企画展は、民族資料とその資料に使われている動物の標本がリンクする本館でも初の試みであり、人びとの暮らしと自然や動物とのかかわり方の多様性を紹介した。

「武器をアートに——モザンビークにおける平和構築」(人間文化研究機構連携展示)

会 期 2013年7月11日～11月5日  
 会 場 企画展示場B  
 プロジェクトリーダー 吉田憲司  
 内 容

アフリカのモザンビークでは、1975年の独立後1992年まで続いた内戦の結果、戦争終結後も大量の武器が民間に残された。現在、この武器を農具と交換することで回収し、武装解除を進めるとともに、回収された銃器を用いてアートの作品を生み出し、平和を訴えようという、TAE「銃を鋤に」というプロジェクトが進められ、内戦後の平和構築のモデルとして注目を集めている。このプロジェクトを通じて制作された「いのちの輪だち」をはじめとする本館が収集した作品と、「銃を鋤に」のプロジェクトを支援してきた日本国内のNGO「えひめグローバルネットワーク」が所蔵する作品をあわせて展示し、アートを通じて平和を築く営みを紹介した。

「台湾平埔族の歴史と文化」(国際連携展示)

会 期 2013年9月12日～11月26日  
 会 場 企画展示場A  
 プロジェクトリーダー 野林厚志  
 内 容

この企画展は、台湾で注目されている平埔族に焦点をあて、その歴史性と現代における民族アイデンティティの動向を日本で紹介することを目的とし開催した。

平埔族の歴史や文化は、台湾における先住民と16世紀以降に増加した漢族系移民との相互作用を考えるうえで非常に重要であると認識されるようになってきている。台湾における民族をめぐる社会のこうした動きは日本ではあまり知られていない。本展では、日本の観覧者が台湾の民族間関係を理解し、さらには台湾社会を身近に感じるための機会を提供した。なお、本企画展は国立台湾歴史博物館(台湾台南市)と共催の国際連携展示として開催したものである。

## 展示関連出版物およびプログラム

●特別展

『屋根裏部屋の博物館——ATTIC MUSEUM』

発行日 2013年9月19日  
 編集・発行 国立民族学博物館

『イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる』

発行日 2014年2月18日  
 編 集 「イメージの力」実行委員会  
 発 行 国立民族学博物館

●ビデオテーク

・ビデオテーク番組

『ボランティアが見た2012年韓国の大統領選挙——キム・シヨンさんの選択』(番組番号2807) 製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

ボランティアのキムさんを通して、韓国大統領選挙の様子を見る。

『2012年 安東権氏 時祭』(番組番号2808) 製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

韓国で先祖を追慕し、一族の一体感を高める「時祭」の様子をのぞく。

『牛と共に』(番組番号2809) 製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

田畑を耕す「役牛」が減少するにもかかわらず、今もなお牛と共に生きる夫婦の姿を追う。

『현대 한국의 결혼 준비 과정——스드메를 아시나요?』(番組番号8027) 製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

## 俗博物館

현대 한국의 결혼 의례 절차인 ‘스드메’ 에 대해서 소개한다.

『2014 설날 풍경——운수중씨 덕의 설차례』(番組番号8028) 製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

설날 조상에게 바치는 제사, 설차례. 운수중 씨 집의 차례를 소개한다.

『한국인의 수능문화——대학입시를 준비하는 특별한 방법』(番組番号8029) 製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

한국 학생과 부모들의 대학입시 준비와 각종 행사 그리고 입시 당일의 모습 소개한다.

『トウバの人々——トウバ共和国編』(番組番号1714) 制作監修：小長谷有紀

ロシア連邦の1つトウバ共和国には約25万人のトウバ人が住んでいる。トージャ地方では彼らはトナカイを飼って暮らしている。

『トウバの人々——中国編』(番組番号1715) 制作監修：小長谷有紀

中国新疆ウイグル自治区のハナス湖周辺には約3千人のトウバ人が住んでいる。彼らはチングス・ハーンの子孫だと自称している。

『トウバの人々——モンゴル編』(番組番号1716) 制作監修：小長谷有紀

モンゴル国には約2万5千人のトウバ人が住んでいる。バヤンウルギー県ではカザフ人とともに遊牧生活をしている。

『トウバの人々——ロシア 中国 モンゴル』(番組番号1717) 制作監修：小長谷有紀

トウバ人は、ロシア、中国、モンゴルの3か国にまたがって住んでいる。ホームイと呼ばれるのど歌で知られている人びとである。

『Тувинцы из Тувинской республики』(番組番号8015) 制作監修：小長谷有紀

В Тувинской республике Российской Федерации проживают 250 тысячи тувинцев. В Тоджинском районе проживают тувинцы – оленеводы.

『图瓦人 图瓦共和国』(番組番号8016) 制作監修：小長谷有紀

在俄罗斯的图瓦共和国大约有25万图瓦人生活。他们在土家地区饲养驯鹿为生。

『Тувачууд. Бүгд Найрамдах Тува Улс』(番組番号8017) 制作監修：小長谷有紀

Оросын Холбооны Улсын бүрэлдэхүүнд багтсан Бүгд Найрамдах Тува Улсад 250 мянган тувачууд амьдардаг. Тоджийн районд цаа малладаг тувачууд суудаг.

『Тувинцы из Китайской Народной Республики』(番組番号8018) 制作監修：小長谷有紀

В районе озера Ханас, в Синьжан – Уйгурском автономном округе КНР, проживают 3 тысячи тувинцев. Они считают себя потомками Чингис хаана.

『图瓦人 中国篇』(番組番号8019) 制作監修：小長谷有紀

在中国新疆维吾尔自治区的喀纳斯湖周边生活着约3千个图瓦人。他们自称成吉思汗的子孙。

『Тувачууд, БНХАУ』(番組番号8020) 制作監修：小長谷有紀

БНХАУ-ын Шинжан – Уйгурын өөртөө засах орны Ханас нуур орчимд 3 мянган тувачууд амьдардаг. Тэд өөрсдийгээ « Чингис хааны хойчис » гэж нэрлэдэг.

『Тувинцы, проживающие на территории Монголии』(番組番号8021) 制作監修：小長谷有紀

В Монголии проживают 25 тысячи тувинцев. Тувинцы и казахи проживают в Баян – Өлгийском аймаке,

занимаясь кочевым скотоводством.

『图瓦人 蒙古篇』（番組番号8022）制作監修：小長谷有紀

在蒙古国生活着约2万5千个图瓦人。他们在巴音乌里盖省与哈萨克人一起过着游牧生活。

『Тувачууд, Монгол улс』（番組番号8023）制作監修：小長谷有紀

Монголд 25 мянга тувачууд суудаг. Баян-Өлгий аймагт тувачууд болон казахууд мал маллан амьдардаг.

『Тувинцы в РФ, КНР, Монголии』（番組番号8024）制作監修：小長谷有紀

Тувинцы разделенно проживают в России, Китае и Монголии. У них популярно горловое пение — хөөмий.

『图瓦人 俄罗斯、中国、蒙古国』（番組番号8025）制作監修：小長谷有紀

图瓦人跨境俄罗斯、中国、蒙古国等三个国家而生活。以呼麦这一“喉歌”而被世人所知晓的人们。

『ОХУ, БНХАУ, Монгол улсад амьдарч буй тувачууд』（番組番号8026）制作監修：小長谷有紀

Тувачууд Орос, Хятад, Монгол 3 улсад амьдарч байна. Тэд хөөмийгөөрөө алдартай.

『Tuvan People in Russia, China, and Mongolia』（番組番号3717）制作監修：小長谷有紀

Tuvan people live in 3 nations, Russia, China, and Mongolia. Their traditional throat singing, khoomei, is well known all over the world.

『雲南省ペー族の楽土』（番組番号1718）制作監修：横山廣子

ペー族にとって、冠婚葬祭や儀礼の場面でスオナー（唢呐）の音は欠かせない。村一番の楽士、楊順銀さんの演奏が周城村に響き渡る。

『雲南省周城村の春節』（番組番号1719）制作監修：横山廣子

春節には家族一緒に毎年恒例の食事をとり、神に祈りをささげる。あるペー族一家の、大晦日から正月2日までの様子を紹介する。

『長浜曳山まつり』（番組番号1713）制作監修：笹原亮二

祭りの宵宮から曳山の巡行、曳山上での歌舞伎芝居の上演などを紹介する。

『漢族の祖廟——中国福建省南部』（番組番号1720）制作監修：韓 敏

漢族の祖廟は父系親族の祖先の霊を祀るところ。また、婚礼や葬儀、一族の重要な会議などもここで行われる。

『福建省安溪県の烏龍茶 鉄観音』（番組番号1721）制作監修：韓 敏

鉄観音は、茶葉を半発酵させて作る烏龍茶の一種。鉄観音の生みの親と言われる茶農家の9代目・魏月徳（ぎげつとく）さんを訪ねた。

『客家のふるさと 福建土楼』（番組番号1722）制作監修：韓 敏

客家とは、中国語の客家方言を話す漢族の支流の1つ。世界遺産となった客家土楼にはかつて300人ほどが居住していた。

#### ・研究用映像資料

『雲南省大理ペー族自治州大理市周城村』（番組番号7224）制作監修：横山廣子

規模の大きなペー族の農村、周城。秋、夏、冬の年中行事、農作業、人生儀礼を通して、人々の暮らしやペー族の文化を描く。

『漢族の祖先祭祀：福建省南部における一事例』（番組番号7225）制作監修：韓 敏

中国では、祖先の霊をあがめ、加護を祈る風習が今でも強い。祖先を大切にしながら名や子孫を残すことを生

き甲斐とする人が多い。

・マルチメディア番組

『遠い記憶、呼びさます声——ダナンマル家の南インド古典音楽』（番組番号6049）制作監修：寺田吉孝

ヴィーナ・ダナンマルの家系に伝わる音楽は、南インドの古典音楽のなかでも特に難しいスタイルをもつ。当代の名手2人による研究公演の記録。

『Voices of Distant Memories : South Indian Classical Music of the Vina Dhanammal Lineage 』（番組番号6050）制作監修：寺田吉孝

The program features two South Indian classical vocalists in the Vina Dhanam lineage which is known to have an austere style.

『のど歌のふるさと』（番組番号6051）制作監修：小長谷有紀

のど歌の起源地とされているトゥバとアルタイから国際的に活躍する歌手を招いた。伝統的な歌いかたの中に独自の工夫がみられる。

『紙芝居で語る郷土玩具』（番組番号6052）制作監修：日高真吾

自然素材を利用してつくられる郷土玩具には、素朴な味わいがある。玩具の由来となる物語とその製作方法について紹介する。

● 「みんなく電子ガイド」プログラム数（2014年3月31日現在）

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	25	25	25	25
東南アジア	32	32	32	32
中央・北アジア	23	23	23	23
東アジア				
朝鮮半島の文化	36	36	36	36
中国地域の文化	7	7	7	7
アイヌの文化	8	8	8	8
日本の文化	31	31	31	31
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総計	257	257	257	257

